

次回例会

日程変更

7月22日（日）

夜7時〜8時半

7月例会は、当初7月29日（日）に予定されていましたが、諸般の事情により、右記の通り日程を変更させて頂きま

前回の5月例会は福祉関係の行事等が重なり、参加者は4名でした。

ちよっぴり寂しい例会でしたが、4名が正信偈を行譜でお勤めし、それなりに和やかなひとときでした。

「正信偈を味わう⑦」は、7月例会に繰り越しましたので、7月例会には皆さん是非ともご参加下さい。

風鈴

なまぬるい風も
どんな風も

清涼の音に変えて鳴る

風鈴

東井義雄先生

《我慢》 仏教用語の解説④

これまで、「他力本願」「往生」「縁起」と、本当は大切な仏教用語なのに、なぜか間違つて良くない意味に使われている例を挙げましたが、今回の『我慢』は全くその逆で、仏教では良くない意味の言葉なのに、一般的には「辛抱する」「堪え忍ぶ」といった意味で、人間として大事な精神をあらわす良い言葉として使われるように変化した、おもしろい例です。

もともとの仏教用語としての『我慢』の「我」は、「我執」や「我欲」といった使われ方をするように、「わたしが」「自分が」などと自分に執着する心で、これが悩みのもとになる、いわゆる煩惱なのです。

また「慢」は、「慢心」「傲慢」などのように、自分の考えを中心とするうぬぼれの心であり、このおごりたかぶりの心も結局は争いの種となり、同じく煩惱なのです。

正信偈にも、

「邪見驕慢惡衆生
信樂受持甚以難」

（おごりたかぶりよこしまの

は、かろう身にて信ぜんに、難き
なかにもなおかたし）
と、驕慢な人間は、信心を受け
ることが、はなはだ難しいと示
されています。
このように仏教ではけっして
良い言葉ではないのですが、と
ころが「我（が）が強い」とい
うことは、負けん気が強く、生
きる力が強いということ、次
第に「頑張りがきく」「辛抱強
い」という意味に使われるよう
になったようです。
最近の痛ましい事件や事故に
は、我慢がしきれなくなつて人
を傷つけたり殺めたり、また凶
悪な犯罪を犯したりする例が多
く見られます。

これは、頑張りや辛抱が限界
に達したというよりも、やはり
仏教用語の本来の意味が示すと
おり、「我」を張りすぎたり、
「傲慢」なおごりの心が強すぎ
たりした結果なのではないでし
ょうか。

人生において、堪え忍ぶこと
は大切なことです。が、「私こそ
が」といった「我慢」や、せっ
かくの人の思いを踏
みにじるほどの「や
せ我慢」はほどほ
どです。



題材法話

○鬼の霍乱（かくらん）

今春の三月頃からしばらくの間、体調を崩しておりました。公私ともに様々なことが重なり、不規則な生活や睡眠不足が続いていたのです。が、その内にだんだんと夜の寝付きが悪くなり、寝付いてもすぐに目が覚めるという状態に陥りました。

身心は疲れた状態なので、すが、1、2時間程度うとうととするくらいの日々が続いたのです。いわゆる不眠症というやつです。

それでも昼間は、一応予定していた仕事や所用は済ませることはできたのです。が、夕刻頃から、頭はもうろう、足はふらつき、自分でもまるで夢遊病者の様な感じがしました。

それでも夜は眠れないのです。これは結構つらいものがあります。

その内に、体の調子も徐々に、とうとうおかしくなり、とうとう



う家内の強い勧めもあり、京都の武田病院という大きな総合病院の神経内科というところで診察を受けることとなりました。

診断の結果は心配していたほどのこともなく、「疲れからくる一時的なもので暫くすれば直ります」と言うようなことだったのですが、実は診察の待ち時間がウンザリだったのです。

朝の10時過ぎに受付を済ませたのですが、待てども待てども順番が廻ってこず、とうとうお昼も過ぎて1時になってしまい、たまらず受付の看護婦さんに、「どうぞなっているのでしょか」と尋ねましたら、「予約でない方は、後ろへまわって頂いておりますので」ということで、診察までには、まだしばらくかかるという返事なのです。

それならば最初に言ってくれば、お昼ご飯でも食べに行けたのにと愚痴を言いたが、結局診てもらったのが2時過ぎで、診察は問診だけのたったの5分でした。



5分見てもらうのに3時間半待ったわけで、その後に、薬をもらうためまた30分ほど待ちました。

またまた愚痴が出そうになったとき、ふと、いつか読んだ聞法誌の話を思い出しました。

○「邪見」と「正見」

あるおばあさんが、体の調子がおもわしくなく、お医者さんさんの診察を受けようと病院に行ったのですが、同じように診察まで3時間待たされて、診察はたった5分で「異常は有りませぬ」という診断だったそうです。

そこで家に帰っておじいさんに「たった5分の診察に3時間待って、注射一本打って貰えなかった」と愚痴られたそうです。

「よかったらおじいさんがよかったです」と微笑まされたそうです。

「5分の待ち時間で、3時間もの診察をされて、大病だと診断されたことを思えば、よかったですのう」と微笑まれました。



これが私達の本質なので
すね。同じ事でも、自分の都合
で喜んだり、悲しんだり、
笑ったり、怒ったりしてい
るのです。
悦ぶべきことを悦ばずし
て、愚痴の家捜しをしてい
るのです。
正しくものを見ることが
できない。これを仏教では
「邪見」といいます。また
「煩惱」ともいいます。
この邪見が、自分で自分
を苦しめ、煩惱が有る限り
悩みが尽きないのです。
仏教はこの煩惱を断ち切
りなさいという教えで、あ
らゆるものを正しく見るこ
とのできる眼を持ちなさい
と教えるのです。
ただしく見ることででき
る眼、これを「正見」とい
い、仏さまの世界です。
凡夫である私達には、完
全な「正見」を持つことな
どはできませんが、できる
だけ仏さまの願いに近づい
て、一つでも愚痴の
数を減らすことが大
切だと思えます。

二門 徒宅住職法話より